

—前3月期は増収、大幅な増益（経常利益2.6倍、純利益4.1倍）となった。その要因とは。

「当社のユーザーが前期から『Withコロナ』の中で実施すべき設備投資を進めたため、受注が増えたことや、管理費を抑制したことなどで大幅な増益となった。増収増益に満足することなく、全社一丸となってさらなる成長を目指したい」

—今期は前期以上の売上高、経常利益を見込んでいる。

「前期からの受注残があり、今期も引き合いが底堅く推移する見込み。製鉄メーカー向けでは電炉タストリサイクル設備を今期中に納入するほか、水素系ガス加熱設備などを受注している。海外では中国向けにステンレス用ストリップ連続焼鈍ラインや環境対策装置

## 中外炉工業 尾崎 彰社長



ニューtral技術で未来をひらく！』を経営ビジョンとし、新市場の創出・既存商品のブラッシュアップ・働きがいのある職場作りを実現する。そのための投資は積極的に推進していく」

「その一環で来年11月、堺事業所に熱技術創造センターを新設する。当社の強みである熱技術を核とし、研究開発のレベルやスピードを上げてイノベーションの活性化につなげていくことで新しい価値を創造して

「高炉各社は製鉄所の集約や、材料の高付加価値化およびCNへの適応などを進めておられる。その中で、集約を機とした設備更新、高付加価値材料・CNに対応する設備投資など、これからの時代に必要とされる技術や設備を当社が開発・提供していきたい」

「CN時代に電炉の重要性は増す。先に述べたタストリサイクル機などニーズに適した設備の引き合いはこれから増えるだろう。非

## 2022 トップインタビュー サステナビリティ経営の針路

### 26年度「売上高415億円、ROE10%目指す」

など底堅い受注状況だ。ロシア・ウクライナ問題など外部要因は不確定要素が高まっているが、目標値をクリアしたい」

—26年度を最終とする『自らを革新し、カーボン

5カ年の中期計画で注力していきたい」

「カーボンニューtral（CN）に対応すべく、鉄・非鉄業界は設備投資を進めている。設備メーカーとしての役割とは。

鉄はEV・軽量化などで注目される業界。銅・アルミの熱処理ラインなど非鉄設備も手掛ける当社にとって成長分野の一つと捉えている。そのほか、廃リチウ

## カーボンニュートラル 対応設備の開発急ぐ

マイオン電池や廃プラなどから福岡までサテライトオフィスの資源循環プロセスを確立させてゼロエミッションを実現させたい」

—課題は。

「研究開発のスピードをさらに速めたい。2030年には水素還元製鉄やアンモニア燃焼火力発電などが拡大するとみている。拡大してから研究開発するので遅い。CNを含めたこれらの時代を先取りして新設備を開発することで、顧客満足度の向上や競合他社との差別化につなげていきたい」

「技術力や設備知識を持った人材を増やしていくのも課題だ。当社の設備は日本全国に納入されている。迅速にメンテナンス対応するために各地にサテライトオフィスを設けており、当社設備だけでなく、他社設備もメンテナンスするケースがある。現在、北海道か

「日本のCO<sub>2</sub>排出量の約1%は当社が製造して納入した設備。既存の全商品をブラッシュアップさせるとともに、CN対応の新設備を開発して、当社設備を通じたCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献したい。具体的に26年度までに納入設備のCO<sub>2</sub>排出量17%減（13年度比）を目標としている」

「研究開発レベルや生産性の向上など、まだまだやるべきことが山積している。従業員一人ひとりが現状に満足することなくスキップアップし、時代に必要とされる技術開発集団を目指したい」

（綾部 翔悟）